

第8回多摩市産業振興推進会議 議事録

日 時 令和7年11月12日（水） 午後6時00分～午後7時45分

会 場 多摩市役所 東庁舎会議室

議 題 (1) 産業振興マスタープラン策定後の事業実施について

報 告 (1) 第7回多摩市産業振興推進会議議事録について

(2) 進行管理票について

(3) 今後の予定について

出席委員 会 長：松本 祐一

副会長：堀江 秀一

委 員：野嶋 琢也

委 員：岩井 隆之

委 員：野村 和伸

委 員：木村 康二

委 員：沖田 敏浩

委 員：田口 真弘

委 員：神田 篤

委 員：佐伯 瑞絵

委 員：平野 紀美子

委 員：小柳 一成（都市整備部長）

委 員：磯貝 浩二（市民経済部長）

欠席委員 横溝委員

事 務 局 麻生経済観光課長、商工観光担当：緒方、沢出

配布資料 資料1 委員名簿

資料2 第7回多摩市産業振興推進会議議事録

資料3 進行管理表

資料4 多摩市産業振興マスタープラン

資料5 多摩市産業振興マスタープラン（概要版）

(午後6時00分 開会)

事務局 会議の開会を宣言し、配布資料をタブレットにて確認。

会長 委員14人中、現時点で12名の出席、多摩市産業振興推進会議設置要綱第6条3項に基づき会議開催が成立することを報告する。議事録署名委員は磯貝委員と神田委員にお願いする。

本日は、協議事項が1件、報告事項が3件、報告事項について事務局から説明をお願いします。

事務局 報告(1)「第7回多摩市産業振興推進会議議事録について」、資料2「第7回多摩市産業振興推進会議議事録」より説明、報告(2)「進行管理表について」、資料3「進行管理表」により説明、報告(3)「今後の予定について」口頭にて説明を行う。

会長 議題(1)「産業振興マスタープラン策定後の事業実施について」事務局から説明をお願いします。

事務局 マスタープラン掲載事業の全てを同時に進めるのは難しい。事業の優先度を設けて順次取り組んでいきたい。その際は東京都の補助金を活用しながら取り組んでいく。具体的には、地域産業成長支援事業の計画に対する補助事業を活用する。

委員 東京都の補助金は3年間のみということか。

事務局 計画補助金は最長3年間、新たな計画を策定すれば継続は可能。

委員 1億円の補助金を得るためには、単年で2億円の事業計画を提出する必要があり、3年間で3億円の計画で考えているということでしょうか。

事務局 上限1億円であるが、そこに市の財源も必要となるため1億円の予算は組めないの、それ以内で事業を組み立てることになる。

委員 コワーキングスペースの運営については厳しいと聞いているが、特別何か考えていることはあるのか。

事務局 シェアキッチン等についても補助対象施設として考えている。

会長 場所は必要だけどすぐには借りられない人も多いと思うので、シェアキッチンやチャレンジショップはあっていいのではないかと。

委員 販路開拓や出店支援は多摩市で行っているのか。

委員 出店支援については、コロナ禍に一度実施したことがある。

委員 東京都の補助事業の採択率はどのくらいか。既存の商店街の空き店舗対策として出店を促進していくのか。

事務局 申請する自治体が多くはないため、申請すれば採択される可能性は高い。

委員 近隣センター、商店会などの賑わい活性化のため、賑わいづくりや活性化につながる業種に来てもらいたい。

委員 商店会の振興と住民を増やす施策をセットで何か考えているか。また都市計画との絡みで何か考えている施策はあるのか。庁内での動きはどうか。

事務局 地区計画の縛りで考えてはいないが、住民を増やしたいということはそのとおりである。飲食や小売りのニーズが高いので、その辺りを考えている。

会長 やりたい人や考えている人がいた場合、地域とつなげてくれる人や組織があることが

重要と思っており、お金ではなく、ソフト面での支援、コーディネートなど中間支援的な役割、地域に密着した組織や事業者が間に入ってコーディネートを行うことについての今の考えを聞きたい。

事務局 ビジネス支援施設では、交流会などで事業者同士の連携を促進するような事業を行うことを前提に施設認定している。今後は事業者同士の連携を促進するような事業をもう少し見える化できるように、施設運営者に促していきたい。創業支援、経営相談は受けているが、すべてを受け入れる状態ではないため、中間支援ができる団体や人材があると多様な機能が果たせるのではないかと感じる。

会長 産業振興推進会議もその役割を少し担えるのではないか、このメンバーは地域で密着して活動されている方がほとんどなので。

委員 知り合いが美容室をオープンする動きを見ていたが、一番最初に融資があり、それが決まってから場所の選定に入る動きになると思うので、市に先に相談するという動きが現実的かどうかと思った。地域に根差した信用金庫が一番情報を持っていると思うのでそこが入口なるかと思う。

委員 お金がある程度見込めないと開業は難しいというのはその通りで、多摩信用金庫で最近始めたサービスで、オープンネームによるマッチングのプラットフォームを立ち上げ10月1日から開始した。廃業を減らすことを目的に、廃業と創業のマッチングをはじめ徐々に集まり始めている。うまくマッチングできれば、お互いメリットがあるため、多摩市でも活用していただければよいと思っている。手数料が発生するので、その部分に補助金を活用できていければよいと思っている。飲食業は廃業も多いが開業希望者も多いので、手当を厚くすれば多摩市で創業しようとする人が増えるのではないか。その辺りも検討していただけるとよいと思う。

委員 飲食業は開業も多いが廃業も多く、ラーメン屋などは3年以内で半分かくらいが閉店してしまうと言われているので、失敗ができるような環境にしていけないと厳しいと思っている。これからはチャレンジしやすい状況を作っていきたいと思っている。飲食店のニーズは多くの場所で言われており、小売店に関しても同じで、その辺りのニーズに答えていきたいと思っている。

委員 施策の中で魅力ある個性的な店舗とあるが、誰がどう選ぶのか。やる側もこういう魅力を打ち出すと支援してもらいやすいとか、方向性をどのように決めるのかを聞きたい。

委員 出店支援金については、業種である程度の制限を設け、飲食や小売りに来てもらえればと今は考えている。買い物やおしゃべりをする場がなくなったことで、近隣センターの賑わいが寂しくなったところがあるので、細かい手法がとれるのであれば、これから考えていきたいと思っている。

南大沢にあるパン屋などは非常に人気があり、遠くからも来てもらえるような、人気があるような所に来てもらえると、他のエリアからも人が集まるということもあるので、そのようなところに来てもらい、人がいる風景を作れば良いと思っている。

委員 市全体でエリアごとに特徴を打ち出すなどデザインができると、市全体のイメージとして興味を引くような形になるのではないか。

- 委員 やる気のある若い方々の後押しができれば良いと思っている。
- 会長 チャレンジしやすい、やり直しが可能な街であってほしいと思うし、特に若い人が多摩市で活動することを促すような事業や政策があればよいと思う。補助金をうまく使いながら、ソフトの部分、ネットワークの部分で何かサポートできると暖かく迎えてあげることができるのではないか。その他、何かやったほうがよいという意見があれば。
- 委員 シェアキッチンが8グループぐらいあれば回るらしく、駅前や高架下など、このエリアではあり得る気がして、モイバーカーリーなどは好事例にあがると思う。パルテノン大通りでイベントなどをやる時にマルシェやキッチンカーを出すことができると誘致につなげることができると思う。コンシェルジュ役の人がキーとなると思うので、コンシェルジュ役の人を生み出せれば、多摩市にとって良いきっかけになるのではないか。長池公園に緑のコンシェルジュが居りあのエリアはより良くなっている。若手にとってチェーンの飲食店だけでは面白みがない。
- 委員 パルテノン大通りの広い空間をどう使うかは、多摩市と新都市センター開発が連携して取組を行っている。ココリアの軒下で飲食店をやってみたいと思って、実験して構想を立てている。
- 会長 中央公園も大きく変わり、連携して取り組めばかなり良い環境になると思う。
- 委員 シェアキッチン利用者にイベント開催時によく出店してもらい、平日でもパンやお菓子の販売をしている。その方たちが店舗を出してくれると良いと思っているが、本人のモチベーションもあるが、飲食店の壁として初期投資があり、居ぬき物件などがあると内装などにお金を掛けられるようになるので、そこがうまく回ると面白い飲食店が出てくるのかと思う。もしパンやお菓子系でチャレンジしたい方がいれば出店できるし、出店者のコミュニティも作っており、現在 70 名くらいが登録されている。イベント出店について情報交換したりしているので、コーディネーターも必要だし、コミュニティも必要だと思っており、その一助になればと思っている。
- 会長 京王電鉄も新都市センター開発も中間支援組織として機能していると思っている。これらをうまくつなげていき、そこに市の施策がうまくつながりだすと新しいことがやりやすい街として見える気がする。
- 委員 街としてチャレンジできるようなイメージづくり、ブランディングができると良い。
- 会長 多摩センター地域と聖蹟桜ヶ丘地域を一緒に見せる機会があるとよいと思う。
- 委員 昼間人口について地域別にわかる資料はあるか。
- 事務局 探してみたい。
- 会長 多摩センター地域の企業はリモートワークが増えて出勤していない傾向などはあるのか。
- 委員 うちの例で言うと、金曜日は在宅推奨デーとしている。
近隣センターの話で、団地の高齢化が進み買い物に行くのも難しい人に対し、今まで学生が運んであげるボランティアがあった。これが補助事業にならないかと聞いていた。以前荷物を運ぶロボットを導入できないかと依頼を受けたことがある。台車のようなもので人について運んで行き終わったらボタン一つで戻っていくというような。

販わいやDXにもつながるものだと思う。

委員 近隣センターのスーパーについて、ここ 10～20 年で撤退した事例が何件もあり、そのたびに出店を依頼している。その地域の住人にとっては貴重な店舗になっており、出店のお願いをしてなんとか出店してもらっている。出店が間に合わない場合は、移動販売等もお願いしながら地域の方に買い物の場所を確保してきた。一方で、スーパーなどは買い物をしていただかないと続けることが非常に厳しい。高齢者のためだけということだと福祉の分野になってくるところもある。多摩市全域がネットスーパーの配達エリアに入っているが、高齢者は機械を操作して注文することが難しいところがある。

委員 スーパーが撤退した時に思ったのは、高齢者の単身世帯が増えると買い物する量が減る。団地の若い人たちは地元のスーパーに行かず車で大きなスーパーに買いに行く。高齢者は近くのスーパーで少ししか買わないため、そのスーパーを買い支えることができていない。消団連で聖ヶ丘のスーパーが撤退しその後新たなスーパーが入った時、来店してもらうように住民が頑張ったが結局はダメだった。なぜかと言うと、声掛けをした人がそのスーパーで買い物をしなかったといういきさつがあった。多摩市は坂が多いが、車で移動する若者は遠くに行っても全然不自由ではない。

会長 多摩市内で買い物をしない、支えるという意識があまりないと昔から言われている。

委員 行きたくても駐車場がないという問題もある。

会長 テクノロジーを積極的に活用できるのであれば、自動運転などニュータウン地域はやりやすい部分もあるので、買い物支援に使えると思うし、その部分でも市はチャレンジしているのではないか。

委員 昨年度まで多摩市内で自動運転の実験を 3 回行っていて、道路が広いということもあり、自動運転の実験に向いているということ京王バスに言ってもらい、今年度は大型バスで自動運転の実験を鶴牧循環のルートを使ってやる予定である。レベル 2 として、運転手が乗車しハンドルをいつでも握れる状態で、駐車車両や自転車が走っているのを避けるときにハンドル操作が必要となる。中国などは完全自動運転で走っているところは路上駐車ができないようにしている。そうすることで想定どおりのルートで行けるので一気に実現性が高まる。今回の実験は、自動運転を導入して運転手不足を解消していかないとバスの減便につながってしまうし、自動運転の実現も遠くなってしまうため、市民の方に理解と協力を得ていくとも合わせて実験の一つとして行っていく。

会長 技術の問題だけではなく意識の問題も関わってくるので簡単ではないと思う。

委員 出店促進支援金は以前コロナ禍に行ってすごくよかった。今回、近隣センターでやる場合と駅近でやる場合補助金の率を変えとかはあり得るのか。

委員 いまの想定の中では考えていないが、まだ最終的に決まっていない。どこまで財政的に認めてもらえるかということもあるので、変えなければいけないところも出てくるかもしれない。コロナ禍のときは国の交付金 10/10 で行えたので、緩い条件でやらせてもらい全額つかったが、そこまでの条件では出来ないと思っている。1 年目の状況を見ながら制度の見直しを行っていききたい。

- 委員 近隣センターに必要なとは思っているが、補助金が出るからずっと続けてできるかという難しいと思う。イベント業者を呼ぶ補助金もあっていいのかと思う。
- 委員 イベント関係の補助金は商店会にすでにあり、多くの商店会が活用している。商店会の年末の福引や夏祭りは補助金で実施している。年々高齢化が進む中で商店会に加入するのも厳しいところもある、駅前であっても同じ状況である。商店会に加入してもらい街自体を盛り上げてもらいたいところもあるし、人の流れ賑わいを作るような業種に絞って商店会にも加入してもらい盛り上げてもらえるような所に限定して支援をしていく方向で考えている。コロナの時に実施した出店支援金も条件は緩かったが、商店会や商工会議所への加入を条件に、その時はかなり加入してもらった。その後一定程度たって退会した方もいるが残っている方もいる。できるだけ続けられるようにサポートして支援していければと考えている。
- 委員 商店会に加入していない人に話を聞くと、加入する魅力を感じないという人が多い。商店会は地域で差が出る。福引などを行っているところは、楽しんでもらえるとか有意義に使ってもらえるということがあるが、行っていないところ難しいところがある。商店会に入るメリットは売上促進だけれど、商店会の役員も高齢化していて、若手のメンバーが入ってもなかなか意見が通らなかつたり、ぶつかたりして退会してしまう。そこに第三者、アドバイザー的な人がいてくれたら色んな商店会を底上げしてくれるのではないかと思ったりする。もっと出来ることがあると思うが、いままで通りだと新しいことが生まれない、誰かプロに入ってもらい指導やアドバイスもらえるような、そこに支援金をもらえればよいと思う。
- 委員 商店会とは年に2回会長と集まって意見交換をしている。商店会ならではの悩みや市でアドバイスできるものはアドバイスをするなどしている。商店会に加入するメリットを打ち出していくことは必要で、イベント補助金以外に、9月に実施した「アイスランドまちバル」では商店会に加入している店舗限定という条件を設定して参加してもらった。商店会に加入しているから市のイベントに参加できるといった仕掛けを行った。加入するメリットを見出してもらい、そのうえで自分たち自身で商店会を盛り上げていくという気持ちがないと長続きはしない。可能な限りきめ細やかに対応していきたい。
- 委員 会長くらいだと話はよく知っていて色々やりたいこと思うことはあると思うが、難しい人もいるので、色々意見を言っても実現することは難しいことも多い。アドバイザー的な人がいればもう少しいい方向に流れる気がする。
- 会長 商店会の組織を維持するためにメリットを作ろうとしていると聞こえてきて、加入することがメリットとして感じられないと、長い目を見たときに商店会の組織自体をどう考えていくかは重要な問だと思う。
- 委員 かわまちのイベントは色々な店が出店していいと思っている。主婦や若い人もやりたい人はいっぱいいることは聞いているが、出店場所ややり方が分からないなど、もっと色々な場所でできればいいと思っている。
- 委員 来年春にオープンデイといって誰でも参加可能なイベント行う予定があり、対面の相談も火・木で行っているのご相談ください。

- 委員 多摩センターも一緒にできればすごく良い。
- 会長 多摩市全体でのイベント、楽しみながらも相談ができる場があると広がりができるかもしれない。
- 委員 秋は音楽フェス、ランタンフェスなど特徴的なイベントがあり、通常は来ない人に良い印象を与えるよいきっかけになるので、特徴的な新しいものに支援するようなことをやらないと企業は良くなる。
- 委員 地域が離れているところでイベントをやる場合、日程をそろえることと交通手段があることが重要で、三鷹では研究所の公開を色々な場所で行い、連絡手段としてバスを用意した。駅前会場と駅前から離れた会場へ行く場合、バスを使ったり、遠くから来る人は市役所に車を止めて色々回ったりできるようにすると行きやすい。一連の施策のポイントは、外部から来てもらいたいという狙いがあると思うが、多摩市でやっている施策が他でやっている施策より魅力があるということはどうやって伝えるかが重要で、多摩市の産業活性化としてもう一歩必要なのではないか。例えば隣の市の人が飲食店をやりたいと思ったときに、選んでもらうには知ってもらわないといけないがそれが出来ているのか。
- 事務局 今のところうまく出来ていないと感じている。ビジネス支援施設創業者利用補助金は市外の人にも補助していこうと考えているが、市民はホームページや広報で伝えるすべはあるが、市外の人にどのように伝えるかは今悩んでいるところである。広域の掲示板やホームページがあれば利用していこうと思っているが、それが効果的かどうかと言われると悩ましい。どのように伝えるかということは現状でも課題と思っている。
- 委員 市のホームページで近隣市との比較ができると良いと思う。
- 事務局 ホームページ等で広報はしていくが、出店者からすると情報はつかみにくい。出店したいと考える人は金融機関に相談に行くこともあると思うので、その時は、たましんに制度の紹介をしていただくとか、市が出来ないところは、民間の皆さんの力をお借りできるとありがたいと思っている。
- 委員 今の若者はホームページやテレビは見ず、ほぼ SNS なので、そこで発信がうまく出来ないとなかなか伝わらない。SNS の戦略の中で上手く PR していく方法が使えないと伝わらないと思う。
- 会長 千葉県流山市はかなり人口を増やしているが、移住希望者に対し夜のイベントに呼んで移住者からの話を直接聞ける機会を作った。そうした場合、経験者からメリット等を直接聞けるというのがプラスに働いた事例がある。SNS の時代だが、一方で直接話を聞くことができれば強力な後押しにもなるので、非常に重要な戦略になる。
- 事務局 マスタープランの P42、43 に施策が 35 個あり、7 番の「中小企業の DX 推進事業」は令和 7 年度事業として実施している。13 番「商店街支援の実施」は来年度予算要求をしている。20 番「チャレンジスペースの利用支援」、23「販路開拓支援」、30 番「就労支援事業の実施④」計画には載っていないが、合同企業説明会を市と事業者と一緒に就業者を募集する事業を来年度事業として予算要望している。32「ビジネス支援施設の利用者支援」来年度予算として計上しており、新規事業 7 つの内 4 つ、今年

度1つ実施し、来年度3つ実施予定で予算要求している。
会 長 これで、第8回多摩市産業振興推進会議を閉会する。

(午後7時45分 閉会)

会議録：経済観光課商工観光担当作成